

義侠屋 ● 三重県四日市市 ●



● 売場2坪からスタート
森井徹さんは28歳だった
1995年に、父親が経営
していたCVSの一角を間
借りして和酒専門店『義侠
屋』を始めた。売場面積は
2坪。



人物 社長の森井徹さんと娘の佑奈さん / 下リリーチン11面のうち、三重県産清酒は1.5面を占める / 中右1店内で地元の特産物・萬古焼の酒器を販売



「関西の大学を卒業後、酒屋に3年間勤めた。さらに専門店を持つための知識を身につけようと、関西・関東の和酒専門店でも短期間だが勉強した」と当時を振り返る。開業直後の取引先は約20歳、うち直取引が約10歳だったという。
2001年に、当時の店舗に近く、近鉄四日市駅から徒歩10分ほどの住宅街に移転した。06年に現在の店舗に建て直し。リーチン11面に全国の清酒がずらりと並ぶ。「特に増やそう」と意識したわけではないが、この20年間で様々な縁を

「いただいた」(森井さん)。清酒は通年品を約50歳、季節限定で扱うのが約30歳。売上げ全体の7割を清酒が占める。焼酎は35歳と取引先は若い。
業務用が7割。「業務用の売上げはコロナで落ちたものの、店売りが伸長し、全体の売上げは落ちていない。『お客様へのトータルサポート』を掲げ、店内外で様々なイベントを行ってきたからかもしれない」と分析する。同店のホームページには「お客様と

お客様と共に「健康」づくり

共にウェルネスライフを目指すという経緯を指している。ウェルネスライフとは「心も身体も健康で、かつ心の豊かさも重要」という意味だ。
● 酒器を楽しむ 店内で行う人気イベントが「やきたま(陶芸)の器で楽しむ酒の会」。既に6回を数える。「やきたま」とは、市内で盛んな萬古焼(ばんこやき)の「陶芸家の卵」の愛称だ。やきたま8人が

井さん)。会費は3,500円。今年6月に4年ぶりに開いたところ、50人の定員がすぐに埋まったという。「マナーのよいお客さんばかり。酒器を介して、若い陶芸家の卵たちの世代間交流も進むようだ」
屋外で開くイベントの一つが、不定期の蔵見学会「歩KURA(あるくら)」。蔵の最寄りに集合し、そこから「ウォーキング」を兼ねて完結する酒であることを表している(森井さん)



YON 市内の酒販店と昨年発売した「マルヨ」

制作した酒器で、日本酒を楽しんでもらう趣旨。イベントには制作者8人も参加し、各自の作品を紹介する。参加者は気に入った器で日本酒とつまみを楽しみ、最後は酒器を持ち帰れる(森井さん)。今年4月は奈良の蔵元で実施。イベントは同店ショップカードの会員(1,000人超)にメールで募集。月1回のジョギング(参加無料)イベントもやっている。
● 地元酒販店とオリジナリティ 四日市市ならではの酒を造りたいとの思いから、7年前から市内の酒販店4店と協力して取り組み、最後は酒器を持ち帰れる(森井さん)。

●所在地 ● 三重県四日市市鶴の森 2-6-13
●電話番号 ● 059 (355) 1995
●営業時間 / 定休日 ● 午前10時～午後8時 / 日曜、第1・3月曜
●店舗面積 ● 53㎡
●売上構成 / 酒類構成 ● 業務用70%、家庭用30% / 清酒70%、焼酎20%、その他10%
●HP ● <https://www.zizake.com/>